

# 雑木林ファンクラブ 通信

住所: 〒247-0013 横浜市栄区上郷町 1562-1 「横浜自然観察の森」 Tel:045-894-7474

## 榎木(ほだぎ)と椎茸

重き用椎茸は夜太りるむ 草村素子

2月に入ると、昨年12月櫟林で切り倒した櫟2本を玉切りし、炭小屋に運搬して椎茸菌の打ち込みが始まる。櫟材の成長が終わり、冬眠期(来春への準備)に材を切り倒しておくのを**葉枯れ**と言う。何故残葉を付けたまま倒しておくのかと言えば、倒して即枝葉を払い、玉切り状態にしてしまうと、材に保たれている水分が切り口を通して外気に逃げていくのを防ぐためだと言われている。それならば立木にしておいて2月に切れれば良いのではと言われるが、樹木に限らず、草木全体に冬至を過ぎ、日一日と日差しが強くなると、人も暖かさを感じるのと同じで樹木もセンサーにより活発に活動を始めている。ですから、この時季に切り倒したりはしないのである。今年もうまく駒打ちが出来、沢山の椎茸が出る事を願いたい。

それと本通信の昨年11月号で写真にあった、「榎木からみごとな椎茸、刺激を与えると促進される」は本当の事であり、椎茸栽培専門業者はその事実を行って毎年大量に収穫しているのである。その理由は、我々日常生活している世の中には全て菌で覆われていると言う位、菌類は空気中・土中・水中・体内どこにも存在します。椎茸菌もその一部で人間にとっては有用な菌である。菌は静かな状態だと余り活発に活動しないが、温度・湿度と菌の栄養分の3つの条件と1つの刺激(トリガー)がないと駄目である。この刺激が自然界であるならば、夏の雷である。昔からの言い伝えで、「夏、山に雷が落ちたような時は秋茸が大量に穫れる」と言われているように、雷が落ちるような時は雨も大量に降り、菌類も活発に活動しており秋期になり温度が適温になると一斉に胞子が膨らみ始めます。椎茸業者はこの事をうまく利用して、菌を植え付けた榎木を1年～4年位の物を休ませながら年2回位榎木を約1週間位水桶につけて十分な水分を菌に吸わせませす。そして水から出した後、木端を金槌(大量な場合等は木端たたきの機械)でコンコンと刺激を与えて菌を目覚めさせませす。その後、適度の室温に入れる事で大量な収穫をしています。ですから、この写真にある榎木の大量椎茸は倒れる事により何らかの刺激を受け、また倒れたことで樹皮からの丁度よい水分を吸収出来たため、外気温とマッチして大量発生したものです。

佐野 修平



伐倒時の様子  
(画像が悪くてすみません)

## 1. 12～1月の活動報告

- ① 12月26日(土)晴 23名 炭小屋整備、クヌギ林植生調査
- ② 1月9日(土)晴 31名 仕事始め、間伐、七草粥、炭出し
- ③ 1月16日(土)晴 23名 竹林整備、炭材作成、材皮むき、竹酢蒸留、150周年標柱製作
- ④ 1月23日(土)晴 21名 竹林整備、炭材詰め(本窯)、製材、標柱製作、運営会
- ⑤ 各水曜日に準活動日として木工作业を実施



忘年会時に焼いた竹炭。良炭です



ドラム缶窯の中はこんな感じでした

## 2. 1月度運営会報告 —1月23日開催—

- ① 2月の作業打ち合わせ …3項の通り:炭焼きの日程が一週早まりました。13日・14日です

## 3. 2月度活動予定

- ① 2月 6日 9号緑地間伐・搬出
- ② 2月13日 炭焼き、竹林整備、トウネズ除伐、150周年標柱製作、SF準備  
食事係:下谷、山田、佐藤
- ③ 2月14日 炭焼き
- ④ 2月20日 材皮むき、標柱製作、SF準備、運営会・勉強会“炭焼き”  
食事係:鈴木、関根、大越
- ⑤ 2月21日 森を守るボランティア体験対応、SF準備
- ⑥ 2月27日 製材、炭小屋整理、道具手入れ、クヌギ林の管理作業、SF準備  
食事係:張間・大庭・片岡
- ⑦ 毎水曜日:準活動日

## 5. 編集後記

- ① 2月下旬に、来年度の友の会会費納入の振込票が配布されます(会報・ゴロ報と同時)。会費の中にはボランティア保険料が含まれていますので、受け取り次第速やかに納付ください(納付が遅れますと4月以降のボランティア作業に参加出来ません)
- ② スプリングフェア(4月下旬開催予定)でのアイデアがある方はお申し出ください
- ③ 鬼塚さんの「炭焼き勉強会」、いよいよ2月20日です。暖かいセンター研修室でじっくり行います
- ④ 雑木林ファンクラブ通信インターネット版はここ <http://zfc.yamagomori.com/index.html>

以上